

地理空間情報活用推進に向けた地理空間情報流通実験コンソーシアム

薄井 智貴, 関本 義秀, 金杉 洋, 南 佳孝, 柴崎 亮介
 東京大学 空間情報科学研究センター

連絡先: <usui@csis.u-tokyo.ac.jp> Web: <http://parma.csis.u-tokyo.ac.jp/>

(1) 動機: 実空間における様々な国土情報あるいは公共施設等の地理空間情報について、国や地方自治体等からホームページや情報公開請求等を通じて徐々に提供されるようになってきてはいるものの、データ入手条件や権利関係、更新頻度等は多様であり、利便性の高いサービス実現のためにはそれらデータ入手の迅速化やコストの低減、品質向上を図ることが重要となっている。

(2) アプローチ: 東京大学空間情報科学研究センターでは、平成21年9月に「地理空間情報流通実験コンソーシアム」を設置し、産官学の関係機関が連携による地理空間情報の収集・配信・利活用等の流通環境の整備を目的とした実証実験を開始した。本実験では、地理空間情報の収集・蓄積・検索のためのシステムを構築し、一般募集した会員向けに地理空間情報のデータ提供サービスを実施している。提供データは、国や地方自治体などの公開情報の他に、インターネット等で公開されている自治体情報や、実験に協力して頂いている三重県や岐阜県の公開情報など通常入手が困難なデータも試験的に公開しているものもある。

(3) 意義: 本コンソーシアムの目的は、地理空間情報そのもの、いわゆる原典データの流通促進であり、これらのデータを利用者側で円滑かつ容易に入手可能にすることにより、地理空間情報サービス全体の効率化、利活用の推進に繋がる。

(4) 特徴: 本コンソーシアムで構築したシステムの特徴は以下の通りで、会員になることで登録されている全354,011件(2010/9現在)のデータが利用可能となる。現在、127社181名が会員として登録されている。

- ・ 地理空間に関する様々なデータ提供機関の配信データを集積
- ・ メタデータによる地理空間情報の容易な検索と実データのダウンロード
- ・ データ提供者のためのデータ登録システムも搭載し、地理空間データの公開も容易

(5) 結果: 散在する地理空間情報を一元管理し提供できる仕組みを構築することで、利用者のデータ収集労力を軽減し、また通常入手が困難な公開データを本システムを通じて配信することにより、データの流通促進にも繋がる可能性を示した。

表 1: 登録済みの地理空間情報データ

1	ボーリング柱状図
2	地価公示/地価調査
3	ダム/漁港/空港/港湾/発電所
4	各種公共施設
5	道路公示情報/道路工事図面
6	工事入札/道路開通/発注見通し
7	道路管理データ
8	森林基本図・計画図/森林簿・路網
9	基準点情報
10	観光施設
11	いきいき下水道・甦る水100選/水の郷百選
12	エコエアポート, リサイクルポート
13	アユの遡上マップ
14	ダムの諸量/河川整備基本方針・整備計画
15	浸水想定区域図・洪水ハザードマップ
16	験潮場
17	鉄道を元気にする34の取り組み

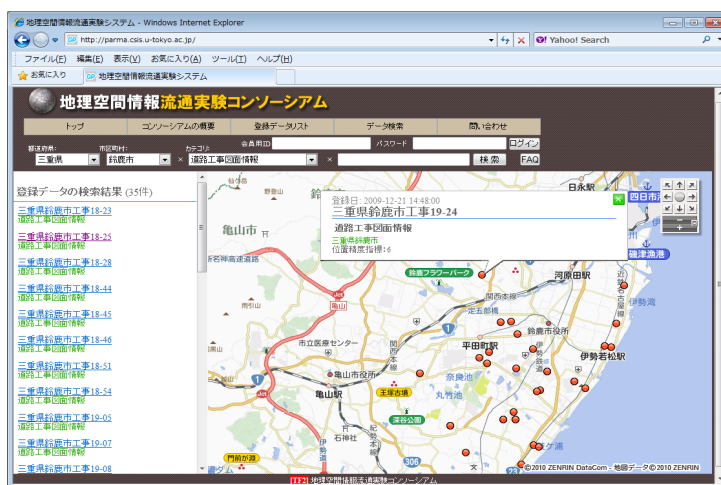


図 1: 地理空間情報検索システム実行画面
 三重県の道路工事図面情報を検索している。